東京交通新聞H22／12／13

ユニバーサルデザイン重視を

神運支局 バリフリネット会議

関東運輸局神奈川運輸支局は7日、横浜市・波止場会館でバリアフリーネットワーク会議（座長＝中村文彦・横浜国立大学大学院工学研究院教授）を開いた。

関運局の長谷部正道次長が冒頭あいさつし、バリアフリー新法に基づき連携してバリアフリー化の進展を図っていく会議の趣旨を述べ、交通基本法制定の取り組みにも理解を求めた。大石英一郎企画観光部長が後段、同法制定に向けた検討状況を説明した。

中村教授の「まちづくりと交通」に関する講演に続き、関係者がバリアフリーの取り組み状況を報告。関運局交通環境部は「こころのバリアフリー」推進に触れ小学校での「教室」開催や教師用ガイドブック活用などを報告した。横浜市は駅周辺を中心としたバリアフリー基本構想の策定状況を説明した。

施設管理者からはJR東日本横浜支社、横浜市交通局（市バス）が駅エレベーター設置や福祉対応車両導入の進展を報告。アサヒタクシー（横浜市）は「子育てタク・陣痛119番」についてタク利用上のバリア解消の視点も含め藤井嘉一郎社長が報告した。かながわ福祉移動サービスネットワークの清水弘子理事長は移動困難者と福祉有償運送の現状を述べた。

バリアフリー推進を巡り障害者、高齢者代表らが意見・要望を述べた＝7日、横浜市で

意見交換では、肢体不自由者、視覚、聴覚、知的各障害者、高齢者、子育て関連の団体代表が委員として意見を述べた。車いす利用者の立場から駅エレベーターや車両の位置、駅員の誘導に配慮を求めるる意見が出た。視覚障害者はホーム柵設置推進を要望。高齢者代表は渡りきれない横断歩道の危険性を踏まえた立体化などの道路改良、公共的視点でのバス廃止代替対策について要望が出た。聴覚障害者代表は「バリアフリー化が当たり前」とし、運賃や公的財源を整備に充てるべきとの意見も出た。

中村座長は「町づくりにユニバーサルデザインの視点は重要」とし、意見・要望を巡り「一番困っている部分に、うまくシステムを組み合わせ対応していくことが必要では」と指摘した。荻原邦男神運支局長が閉会あいさつを述べた。